

「ある人生相談から」

「ある人生相談から」を読み、疑問に思った事、気づいたことを書き、それについて自分自身の考えを書いてください。書いてある内容と自分の常識とを照らし合わせ、想像力を十分に使って考察してください。

家族や友達に(電話等で)相談しても良いです。ただし自分がどう思ったのかを書くようにしてください。

[illegible]

9年生 課題

次の文を読み、別紙に回答

この相談は、ある育児雑誌の子育て相談コーナーに実際に読者から投稿された相談を基にして私が作成したものである（参考『NHKすくすく赤ちゃん』一九九七）。まずその概略をここに記してみよう。

ある人生相談から

「家事・育児の負担が私にかかるばかり。離婚も頭をよぎるこの頃です」

私は三二歳の公務員で、二歳の女兒がいます。パートナーは同い年で出版社の編集者をしていいます。私たちは同じ大学の同級生どうし。結婚に際しては、お互いに仕事も家庭も両立できるように、助け合っていくことを約束して結婚生活をスタートしました。私にとってもパートナーにとっても、この約束はごく自然なことでしたし、家事分担も何の問題もなく順調な日々を送っていました。

ところが子どもが生まれてから、この歯車が狂い始めてしまいました。というのも、育児や家事の大半が私の肩にかかってしまっています。もともと定時に帰宅しやすい私の仕事と違って、パートナーの仕事は不規則でしたが、最近は年齢的にも仕事に油が乗ってきたようで、連日帰宅が遅くなります。パートナーが育児や家事を分担できるのは、せいぜい休みの日ぐらい。子どもも私にばかりなついてしまっています。

私は家事も育児もきらいではありません。しかし、これでは仕事も家庭も互いに分かち合っていないといった約束はいつたいていどうなってしまうのでしょうか。これをパートナーに言っても、今は自分のほうが仕事が忙しいのだから、時間の都合がつくほうが助けてくれてもいいのではないか？

二人が同じことをするのが必ずしも分かち合いではない。できる人ができることをするのも、分かち合いではないのか？」と言って、いつこうに取り合う気配がありません。これでは何のために結婚したのかと疑問ですし、最近では「離婚」の文字が頭をかすめるようになっていきます。こうした私たちの様子をうすうす察知している私の母からも、別れることをそれとなくすすめられています。

典型的な二つの回答例

さて、この人生相談にあなたが回答者なら、どのように答えるだろうか。

これまで私はいろいろな場で、いろいろな機会を捉えて、この相談を紹介し、それを聴いてくれた方々から回答を求めてきた。大学の講義の中で学生を対象として、あるいは社会人を対象とした講演先で、また各種の小規模なミーティングで、性別も年齢も、職業も異なる方々に回答していただいた。その人数は概算でも五、六百名に及んでいる。

しかし、残念ながら、現在までに二人を除いて「正解者」は出ていない。

もつともそう言くと、そもそも人生相談に「正解」があるのかと、訝る人も少なくないだろう。たしかにどのような回答であつても、それは回答者の人生観、価値観の問題であつて、数式や化学式の解答のように正誤を決定できるものではない。しかし、それでも私がこの相談内容を掲載する雑誌の編集者であるなら、掲載不能として却下せざるを得ない回答ばかりであつたのである。その理由は後で述べることとして、まず人々の回答のうち、意見を二分する代表的な例を紹介しよう。